



絵を生きがいに

Vol.69

島田 智枝さん
(青木町在住)

60歳以上を中心とするスポーツと文化の祭典「全国健康福祉祭とちぎ大会」(ねんりんピック栃木2014) 美術展の洋画部門で、(一財)長寿社会開発センター会長賞を受賞。



「ねんりんピックの美術展への応募は初めてで、受賞したと聞いたときは、頂いた賞がどれくらい良い賞かわからず、あまり感激がなかった。運が良かっただけです」と語ってくれたのは、赤い服がお似合いの島田さん。

10月4日〜7日に、栃木県で開催された「第27回全国健康福祉祭とちぎ大会」の福祉・生きがい関連イベント「ねんりんピック栃木2014美術展」の洋画部門において、題名「日ざし」という油絵の作品が(一財)長寿社会開発センター会長賞に輝きました。

今回の作品「日ざし」は、体調を崩していたご主人の具合が、作品を描き始めたところから少しずつ良くなってきたことが、自分の心に日が差してきたように感じられたことから「日ざし」と題名を付け、2カ月かけて完成させました。

▼自宅で筆を執る島田さん



小学生の頃、絵で賞状をもらった記憶はあるものの美術の成績も普通で、特に美術に関心がなかった島田さんですが、子供からやると手が離れた40歳の時、当時勤めていた養護学校で美術の先生に勧められたことがきっかけで、本格的に洋画を始めました。

30年以上描いているが、納得のいく作品はできたことがなく、展示された自分の作品を外して帰りたいと思ったこともあったそうですが、山口県美術展覧会では7年連続で入選の快挙を達成しました。

自分のテーマは「玉ネギ」と話す島田さん。畑には毎年必ず玉ネギを植え、それを題材にしています。収穫した玉ネギを見て絵を描き、玉ネギが踊っているように見えれば、孫が踊っているように見えてくる。玉ネギを身の回りのものに置き換え、玉ネギに語りかけるほどの玉ネギ好きだそうです。

「集中して描いている間は、自分の気持ちたちが落ち着きます。また絵で知り合った仲間がいることが幸せです。その仲間と絵の鑑賞を兼ねて旅行すると楽しくて。絵は私の生きがい。元気で筆が持てる間は絵を続けていくことが目標です」と話してくれました。



▲畑仕事に精を出す島田さん



▲入賞作品「日ざし」
(横116cm×縦92cm)